

大雨などから避難するときの注意点

ポイント

1 動きやすく、安全な服装で



ヘルメットで頭を保護し、靴はひもで締められる運動靴にする。長靴は中に水が入り、歩けなくなるため厳禁。

ポイント

2 足元に注意

道路が冠水すると足元が見えにくくなり、側溝やマンホールに気づきにくくなる。長い棒などを杖代わりにして歩くと安全。



※電柱などを目印にするなど

ポイント

3 単独行動はしない

避難するときは2人以上で。流されないように、ロープで互いを結ぶ。



ポイント

4 深さに注意

歩行可能な水深の目安は約50センチ。水の流が速い場合は20センチ程度でも危険になる。危険だと判断した場合は、無理をせず、高所で助けを待つ。



ポイント

5 要配慮者を守る

高齢者や傷病者は背負い、子どもには浮き輪などを着けて安全を確保する。



📢 ミミがポイント! こんな危険も知っておきましょう!

- 風雨が強まってから屋根などを補強するのは非常に危険です。絶対にやめましょう。
- 強い風雨の中での見回りや、堤防・海辺に近づくのは事故のもと。専門の人に任せましょう。

- 土砂災害の危険がある場合は、なるべく早めに避難準備や避難行動を始めましょう。
- 大きな河川では住んでいる地域で雨がやんでも洪水になることがあるので、災害情報に注意しましょう。

※大規模河川よりも中小河川のほうが水位の上昇が速いことも知っておきましょう。



土砂災害の基礎知識

土砂災害は突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして人命や財産を奪ってしまいます。土砂災害の発生を予測するのは困難ですが、発生前には前兆現象が見られる場合があります。

土砂災害の種類と前兆現象

がけ崩れ・山崩れ



雨水がしみ込んで、やわらかくなった斜面が急に崩れ落ちます。日本で最も多い土砂災害で、人の住む家の近くでも突然起きるため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い災害です。

こんな前兆現象に注意!

- がけからの水がにごる。
- 地下水やわき水が止まる。
- 斜面のひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- がけから音がする。
- 異様なにおいがする。

地すべり



地盤が弱い土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が、地下水の影響と重力でゆっくり下へ移動する現象です。ひとたび発生すると家や道路、鉄道など広い範囲に被害を与えます。

こんな前兆現象に注意!

- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水がにごる。
- がけや斜面から水がふき出す。
- 家やよう壁に亀裂が入る。
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く。

土石流



長雨や集中豪雨などで、山腹や谷川の石や土砂がいつきに下流へ押し流されます。勢いが強く圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊していきます。

こんな前兆現象に注意!

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の水がにごったり、流木がまざったりする。
- 腐った土においがする。

🌸 福岡県では

土砂災害

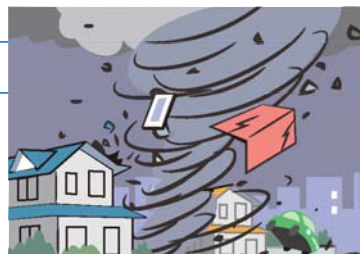
「平成29年7月九州北部豪雨」では、土砂災害が多発しました。また、土砂災害の影響で大量の流木が橋げたに引っかかり、川の流れをせき止めたことで浸水被害を拡大させました。

竜巻の基礎知識

竜巻は、発達した積乱雲の強い上昇気流によって発生する激しい空気のうず巻きです。うずの直径は数十～数百メートルに及び、しばしば漏斗状または柱状の雲を伴います。

竜巻による被害の特徴

- ⚡ 風速が毎秒 70 メートルを超えるような猛烈な風が吹くことがあり、短時間で狭い範囲に集中的に被害をもたらします。
- ⚡ 猛烈な風によって、建物が基礎から転倒したり、車が巻き上げられて横転したりする場合があります。
- ⚡ 竜巻は高速で移動することがあります。過去には、時速 90 キロ以上で移動した竜巻が確認されています。



- ⚡ 発生状況を見ると、7月から増え始め9月をピークに11月まで多く発生しています。この時期は前線や台風の影響および大気の状態が不安定になりやすいためです。
- ⚡ 地域的な発生の特徴を見ると、1年を通して沿岸部で多く発生するほか、夏は内陸部でも発生します。

⚡ポイント! 竜巻が接近してきた場合の周囲の変化

- ① 空が急に暗くなる
- ② 大粒の雨や「ひょう」が降る
- ③ 漏斗状の雲が目撃される
- ④ 「ゴー」というジェット機のような音が聞こえる
- ⑤ 飛散物が筒状に舞い上がる
- ⑥ 気圧の変化で耳に異常を感じる



福岡県では

竜巻

福岡県内では、昭和 36 年（1961 年）以降平成 23 年（2011 年）までに 18 回の竜巻が確認されています。発生時の気象状況としては、台風接近時よりも前線の影響によるものが多くなっています。（出典：「福岡県地域防災計画（基本編・風水害対策編）」）

土砂災害・竜巻発生時の対応

土砂災害から避難するポイント

土砂災害は被災すると命に関わる危険が高いため、早めの避難が重要です。県が指定する「土砂災害警戒区域（通称イエローゾーン）」や「土砂災害特別警戒区域（通称レッドゾーン）」に自宅がある人は、特に厳重な警戒が必要です。

ポイント

1 ほかの土砂災害危険区域を通らない

避難する際は、ほかの土砂災害危険区域（危険箇所・警戒区域など）を通らないようにしましょう。



ポイント

2 雨がやんだ後も注意

これまで降った雨が土の中に残っています。雨がやんでも大雨警報が発表されている間は、土砂災害が発生するおそれがあるので警戒しましょう。

ポイント

3 前兆現象を知り早めに避難

土砂災害の発生前には、前兆現象がみられることがあります。前兆現象を知ったときは、速やかに避難しましょう。

ポイント

4 土石流に直面したときの逃げ方

土石流のスピードは時速 20～40 キロと大変速く、流れに背を向けて逃げても追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に走って逃げましょう。

ポイント

5 避難の余裕がないときの緊急避難

比較的高い鉄筋コンクリート造りなどの堅固な建物の 2 階以上で、斜面から離れた位置にある部屋に避難しましょう。



土砂災害警戒情報とは

大雨などにより土砂災害発生の危険が高まったとき、県と気象台が共同で「土砂災害警戒情報」を発表します。情報が出たら避難開始の目安です。